

福島県相馬市地先における ヒメバカガイの出現について（短報）

水野拓治

Growth and maturation of the bivalve *Macra Crossei* Dunker
off Soma, Fukushima (Short Paper)

Takuji MIZUNO

ま え が き

ヒメバカガイは福島県沿岸のホッキガイ漁場において、普通に見られる二枚貝である。30年以上にわたり継続的に行われている福島県水産試験場によるホッキガイ資源調査でも、多数採集されているが、その季節的な出現動向について整理された例は鈴木ら(1985, 1986年)があるだけで知見に乏しい。

ヒメバカガイは、小型で産業的価値はないが、その分布個体数だけではなく、発生時期、寿命など生態的知見が、ホッキガイ漁場環境をみる指標となるか検討することを目的に整理を行った。

材料及び方法

1991年4月から1993年3月にかけての2か年間、国庫補助事業「地域特産種増殖技術開発事業」による放流人工種苗ホッキガイ採捕調査及び相馬原釜漁業協同組合のホッキガイ漁期前調査において採集されたヒメバカガイの殻長測定結果を使用した。

採集漁具は、福島県相馬地区で使用されているホッキガイ貝けた網に16mm目合いの袋網を取付け10m曳きしたもの（以下、「稚貝曳」という。）及び10mm目合いの袋網を取付けたハマグリ貝けた網（以下、「曳マンガという。）である。調査地点は、相馬市地先水深7.2m地点（通称、堂前の根の北）である。（漁具詳細、調査地点は、地域特産種増殖技術開発事業報告書に記載済みでありここでは省略する。）

結果及び考察

月別の殻長組成を図1-1から図1-2に示す。

1991年4月は、殻長12mmモードの尖度の高い単峰の殻長組成であった。このモードは、8月までに殻長20mmに成長し、10月までで不鮮明になった。

1991年8月に出現した殻長10mmモードは、1991年12月まで殻長10~11mmモードを維持したまま、殻長20mmに達する幅の広いモードを形成した。この群は、1992年2月、1992年5月（稚貝曳きのため小型個体が少ない）と幅の広いモードを維持し、その後、1992年9月には、極限殻長に近いと考えられる殻長22mmを中心に尖度の高いモードを形成した。その後1993年5月まで明瞭なモードを形成した。1993年8月の殻長20mm台のものは、主群は後続群と考えられ、この群が生残しているかどうかはわからない。

1992年9月に出現した殻長7mmモードは、1993年1月までに殻長18mmまですそ野を持つが、殻長8mmにモードを持つ比較的尖度の高いモードを形成した。1993年5月の殻長13mmモードは稚貝曳のため、この群の大型の部分が現れたものと考えられる。1993年10月には殻長22mmモードにモードを持つ尖度の高いモードとなった。

殻長20mm以上の個体の生殖腺について、一部目視観察した記録では、1992年8月3日は発達、8月25日と9月4日は退縮、9月21日と10月29日は発達、11月19日は退縮であった。5~7月の観察記録はないが、少なくとも8月から10月まで産卵が行われることが考えられ、8月に殻長10mm台が出現することから8月以前にも産卵が行われていると考えられる。

以上から、当海域におけるヒメバカガイの生活史としては、以下のような仮説が考えられる。産卵期は8月以前から10月と長期間である。当歳貝は12月まで成長する。12月時点での殻長は4～18mmであり、生残の良かった発生時期により、年により殻長組成は大きく異なる。12月以降、翌年5月まで成長は停滞する。発生翌年の5月以降、再び成長期になり、10月までに概ね極限殻長である殻長20mmを超えるとともに、再生産に加入するものがあると考えられる。この段階で死亡するものもあるが、越冬し、翌年の産卵期に再び再生産を行う個体もある。寿命は2年であると考えられる。

参考文献

鈴木馨・岩上哲也

昭和60年8月菊田浦に発生したヒメバカ稚貝の成長と生残(1986年福島県水産試験場場内研究発表会要旨集)

鈴木馨・岩上哲也

S 60年菊多浦にみられたヒメバカ稚貝の大量発生と底質環境(1985年福島県水産試験場場内研究発表会要旨集)

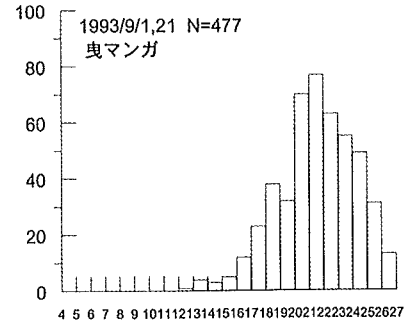
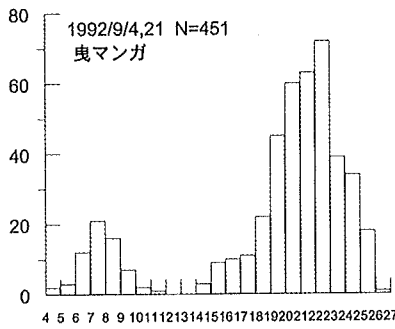
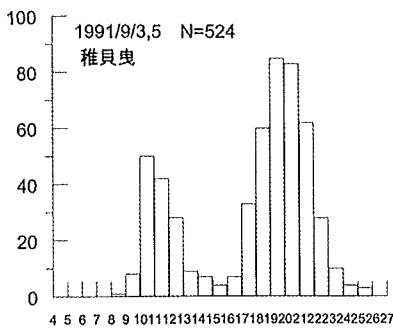
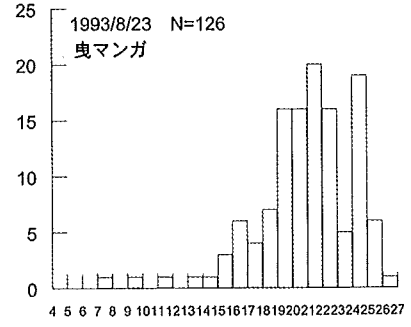
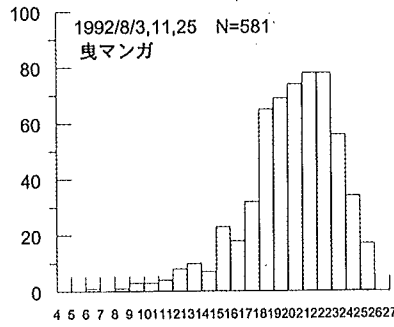
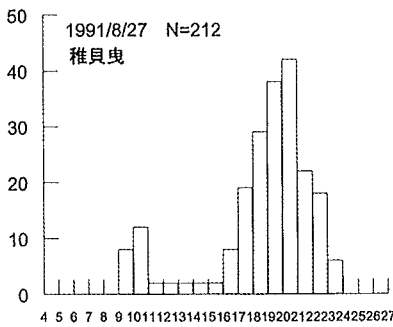
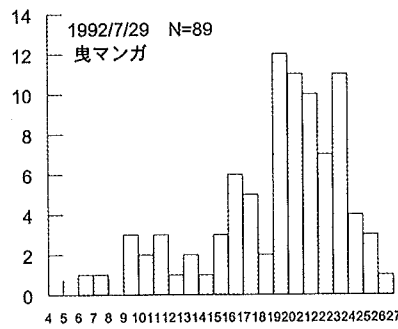
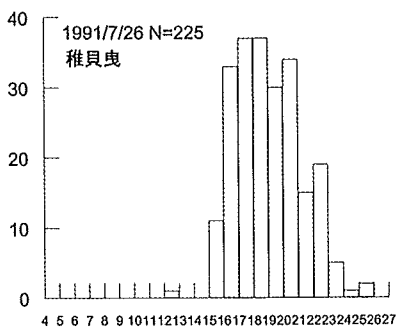
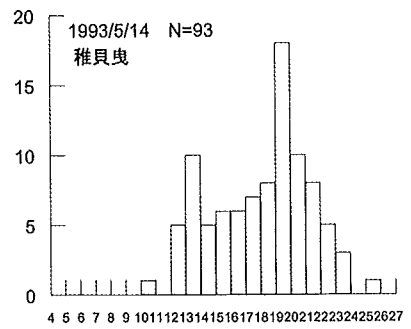
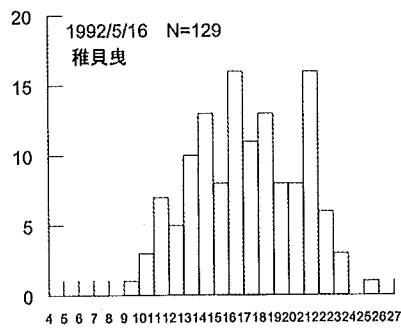
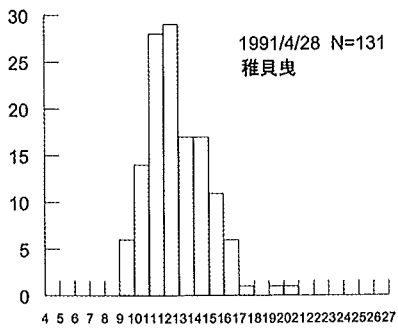


図1-1 ヒメバカガイの殻長組成 (横軸：殻長(mm)、縦軸：個体数)

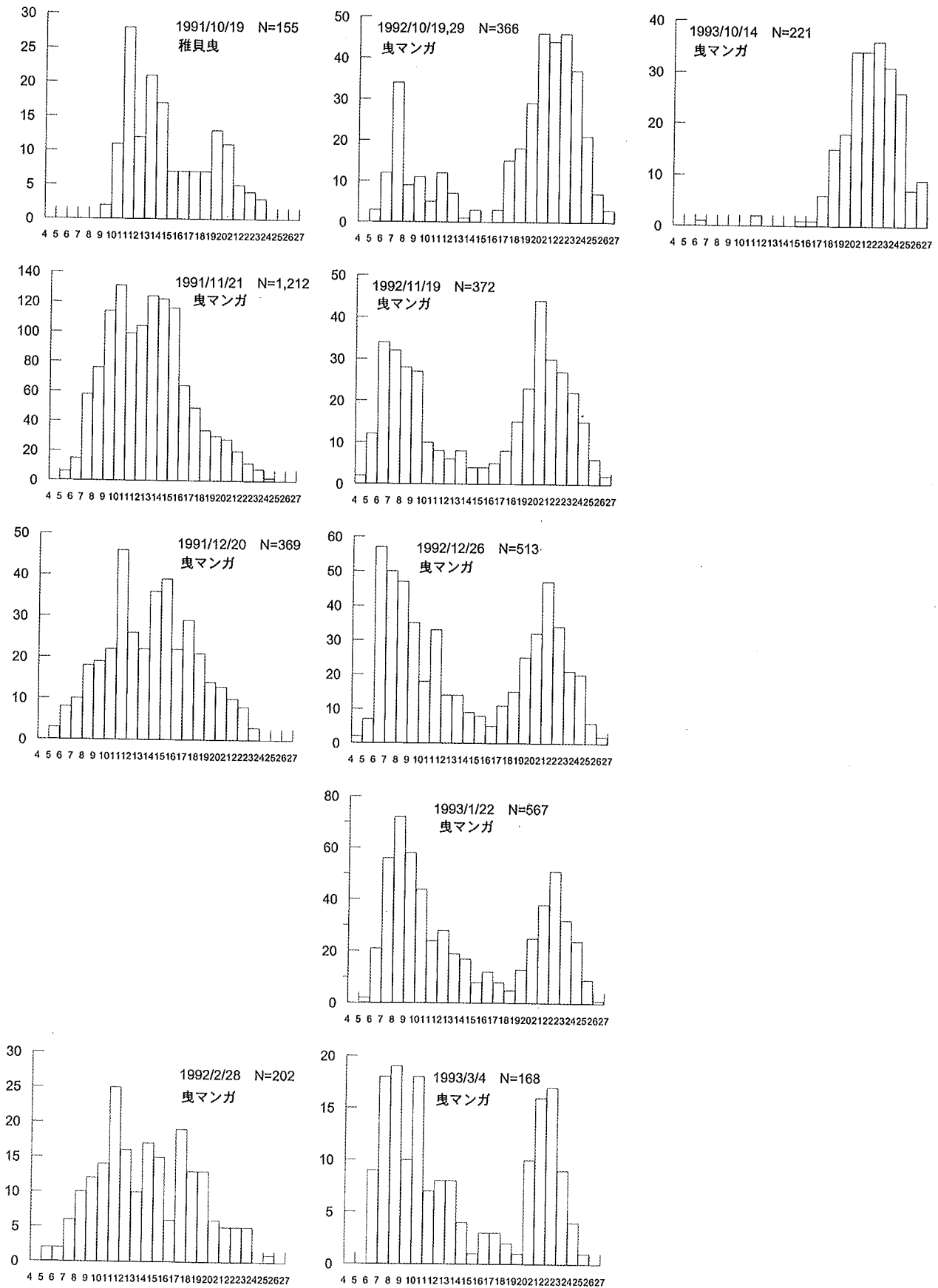


図1-2 ヒメバカガイの殻長組成 (横軸：殻長 (mm)、縦軸：個体数)